

アヴェ・マリアの祈り

(試用版)

アヴェ・マリア、恵めぐみに満みちた方かた、
主しゅはあなたとともにおられます。
あなたは女おんなのうちで祝しゅくふく福され、
ご胎たいない内の御おん子こイエスも祝しゅくふく福されています。
神かみの母はは聖せいマリア、
罪つみ深ぶかいわたしたちのために、
今いまも、死しを迎むかえる時ときも祈いのってください。
アーメン。

(2010年10月8日 特別臨時司教総会にて試用承認)

「聖母マリアへの祈り」の改訂について

1. 「聖母マリアへの祈り」から「アヴェ・マリアの祈り」へ

かつての『公教会祈祷文』に掲載されていた文語による「主祷文」と「天使祝詞」は、ともにカトリック教会でもっとも重要で身近な祈りでしたが、他の多くの日常の祈りとともに口語による祈りとして作成してほしいとの要望がしだいに出来るようになりました。

このような要望を受けて、当時の日本カトリック司牧司教委員会が編集した『日々の祈り』（1993年9月15日発行）には、口語文の「主の祈り」と「聖母マリアへの祈り」が掲載されました。その後、「主の祈り」は聖公会との共通口語訳が作成され、2000年2月に日本カトリック司教協議会によって認可されて用いられています。

口語文の「聖母マリアへの祈り」は、今日まで17年にわたり使用され浸透してきましたが、一方では、聖書のことば（ルカ 1・28、1・42）に基づく祈りの前半部分について、聖書により忠実に訳してほしいとの要望が寄せられていました。

このような状況をふまえ、日本カトリック司教協議会はこのたび、現行の「聖母マリアへの祈り」をできる限りラテン語原文の内容を生かして改訂することとし、2010年10月8日に開催された特別臨時司教総会で、新しい「アヴェ・マリアの祈り」を作成しました。長年親しんできた「聖母マリアへの祈り」を改訂し、新しい祈りを承認することは、信徒の皆様のご負担を思うと司教団としても勇気のいることでしたが、よりよい祈りで賛美をささげるために改訂に踏み切りました。

2. 改訂箇所について

①表題「アヴェ・マリアの祈り」について

これまで文語の祈りは「天使祝詞」、口語の祈りは「聖母マリアへの祈り」と呼ばれてきましたが、下記②(a)の説明にあるように、冒頭の“Ave, Maria”を片仮名で表記することにしたため、祈りの表題もそれに合わせて「アヴェ・マリアの祈り」にしました。

②おもな改訂箇所

(a) 「アヴェ・マリア」

ラテン語の祈りは、“Ave, Maria”という呼びかけで始まります。この“Ave”というあいさつのことばは、「聖母マリアへの祈り」では省かれていました。ルカ 1・28に基づくこのことばは、『聖書 新共同訳』では「おめでとう」、フランシスコ会聖書研究所訳『新約聖書』では「喜びなさい」などと訳されています。けれども、たとえば臨終や通夜のような儀式の中でロザリオの祈りを唱えるとき、「おめでとう」や「お喜びください」、あるいは文語の祈りの冒頭の「めでたし」などを用いていると唱えにくいとの指摘が、「聖母マリアへの祈り」を作成したときからありました。また、「アヴェ・マリア」ということばは、キリスト教以外においてもすでに広く定着していると考えられます。これらを考慮したうえで、今回はラテン語の冒頭のことばを片仮名で表記することとしました。

(b) 「恵みあふれる聖マリア」→「アヴェ・マリア、恵みに満ちた方」

「恵みあふれる」と訳されていた“*gratia plena*”の箇所は、ラテン語の“*plena*”（満ちる）により忠実な訳として、「恵みに満ちた方」としました。

(c) 「主はあなたを選び、祝福し」→「あなたは女のうちに祝福され」

「主はあなたを選び、祝福し」という訳については、ラテン語原文の“*in mulieribus*”（女のうちに）が訳されていないとの指摘がありましたので、このことばを訳しました。また、「聖母マリアへの祈り」では、主なる神を主語にして「主はあなたを選び」と訳したため、原文にはない「選び」ということばを用いていました。これらの点をふまえ、今回はかつての文語の祈り「御身は女のうちにて祝せられ」に近い表現に変更しました。

(d) 「あなたの子イエスも祝福されました」→「ご胎内の御子イエスも祝福されています」

「あなたの子」と訳されていた箇所は、ラテン語原文の“*fructus ventris tui*”（あなたの胎の実）の“*ventris*”（胎）を訳して「ご胎内の御子」としました。なお、“*fructus*”は文字通りの意味は「実」、「果実」（英語では“*fruit*”）ですが、日本語の祈りの文章にはなじまないため文語の祈りにある「御子」を採用しました。また、「祝福されました」は、聖書のギリシア語原本の該当箇所（ルカ 1・42）を参照すると、過去に行われた行為の結果が現在も続いているという意味を含めて訳することができるので「祝福されています」と訳しました。

(e) 「罪深いわたしたちのために」について

今回は変更していませんが、「罪深いわたしたちのために」についても検討されました。原文は“*pro nobis peccatoribus*”で、「わたしたち」と「罪びと」が並列に置かれているので、そのまま「わたしたち罪びとのために」と訳すほうがよいとの指摘が改訂の準備段階でありました。この「罪深い」か「罪びと」かに関して検討した結果、神学的観点からも司牧的観点からもいずれの表現にも採用できる根拠があること、また日本語の語感にもかかわる問題でもあることなどを考慮して、この箇所は従来どおりの表現を用いることとしました。

— ご参考 —

天使祝詞

めでたし、聖寵充ち満てるマリア、
主御身と共にまします。
御身は女のうちにて祝せられ、
御胎内の御子イエズスも祝せられ給う。
天主の御母聖マリア、
罪人なるわれらのために、
今も臨終の時も祈り給え。
アーメン。

聖母マリアへの祈り

恵みあふれる聖マリア、
主はあなたとともにおられます。
主はあなたを選び、祝福し、
あなたの子イエスも祝福されました。
神の母聖マリア、
罪深いわたしたちのために、
今も、死を迎える時も祈ってください。
アーメン。

（『公会堂祈祷文』[1958年5月15日発行]より）

（『日々の祈り』[1993年9月15日発行]より）

3. 試用とご意見の提出について

この「アヴェ・マリアの祈り」は最終決定版ではありませんが、作成にあたっては、教義的な観点からは十分な時間をかけて司教団で吟味いたしましたので、個人としても共同体としても全国で広く試用をしていただき、祈りとしての唱えやすさ、語感、日本語の表現などについて、以下の要領にてカトリック中央協議会までご意見をお寄せください。

提出方法：各教区でまとめて提出して下さっても、ご試用いただいた各小教区、修道院、または個人から、個別に提出していただいてもかまいません。

提出先：〒135-8585

東京都江東区潮見 2-10-10 カトリック中央協議会 司教協議会秘書室

E-mail : maria@cbcj.catholic.jp

FAX : 03-5632-4465

締め切り：2011年3月25日（金）必着

*ご意見は、できるだけEメールでお送りいただけますと幸甚です。

*電話でのご意見はお受けできません。必ず文書にてご提出ください。

*教区名、小教区名（または修道会名、諸団体名）、提出者名を明記してください。

皆様からいただいたご意見を参考に、2011年6月に開催される定例司教総会であらためて検討し、最終的に確定する予定です。

2010年12月8日 無原罪の聖マリアの祭日に

日本カトリック司教協議会